

プレゼン資料 容易に作成

エイト日本技術開発、きもと

全天球写真と3DCAD活用

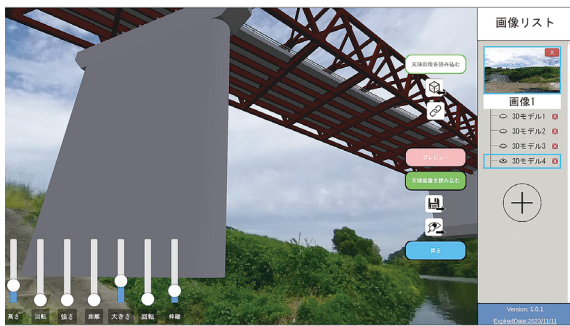
エイト日本技術開発からは、BIM/CIMへの新たな対応として、全天球画像（360度写真）と3DCADを組み合わせてプレゼンテーション資料を容易に作成できるシステムを開発した。全天球画像に構造物などの3Dモデルを配置することが可能で、整備イメージを確認したり複数案を見比べたりできる。太陽の位置を踏まえて影を反映することも可能。無償ビュ

ーワーを用意しており、発注者など関係者による確認にも対応する。

「EyeCon360」は、画像処理などを手掛けるきもとの共同開発。同システムに全天球画像を取り込み、その中に3Dモデルを配置した上で、距離や大きさなどを調整する。太陽の高さや強さなどを変化することで、影の位置が変化し、日照を確認できる。フィルターリング機能により、橋梁形式など複数の3Dモデルを取り込んで比較するような利用も可能だ。

アイコンやコマンドが少なく操作も容易。点群データを扱いにくいため、データの容量が小さく、外部サーバーと接続せずに利用することもできる。簡単なモデルであれば、数分の作業で作成できるという。

さまざまな構造物の新設



画面のイメージ（エイト日本技術開発提供）

設計など計画初期段階での高度なプレゼンテーションや、予備設計、災害時の復旧初期計画、仮設計画などでの活用を想定する。2024年度内のリリースを予定。当面はサービスとして提供するが、将来的にはアプリとして販売することを視野に入れている。

